

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

・平成 21 年度土地活用モデル大賞選定プロジェクト国土交通大臣賞選出並びに表彰式を開催	P 1
・平成 21 年度土地月間記念講演会を開催	P 8
・淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発事業 VE 提案審査会の開催	P 10
・平成 21 年度まちづくり情報交流協議会全国秋季研修会（別府）の開催	P 11
・平成 21 年度調査研究報告会及び意見交換会開催のご案内	P 12
・首都圏外郭放水路及び越谷レイクタウン研修会を開催 （アーバンインフラ・テクノロジー推進会議・都市地下空間活用研究会）	P 13
・会員紹介：東武計画株式会社	P 15
・機構の活動状況	P 16

§ 平成 21 年度土地活用モデル大賞選定プロジェクト 国土交通大臣賞選出並びに表彰式を開催

(財)都市みらい推進機構は国土交通省の後援をいただき、平成 21 年度も土地活用モデル大賞を開催致しました。本年度は 15 プロジェクトの応募をいただき、1 次審査で 11 プロジェクトを選定、最終審査で 8 プロジェクトを土地活用モデル大賞（国土交通大臣賞）をはじめとする優秀作品として選定し、10 月 26 日に発明会館におきまして表彰式を開催いたしました。

選定結果

- 国土交通大臣賞
 - ・「篠崎駅西部地区連鎖型土地地区画整理事業」〔東京都江戸川区〕
- (財)都市みらい推進機構理事長賞
 - ・「丸の内パークビルディング・三菱一号館」〔東京都千代田区〕
 - ・「黄金町地区における高架下活用及び小規模店舗転用によるまち再生プロジェクト」〔神奈川県横浜市中区〕
- 審査委員長賞
 - ・「むろらん広域センタービル」〔北海道室蘭市〕
 - ・「井野アーティストヴィレッジと Tappino による取手井野団地アート拠点形成プロジェクト」〔茨城県取手市〕
 - ・「住宅型・介護付有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」」〔新潟県上越市〕
 - ・「戸畑 C 街区整備事業」〔福岡県北九州市戸畑区〕
 - ・「鹿児島市電軌道敷緑化整備事業」〔鹿児島県鹿児島市〕



土地活用モデル大賞は、優れた土地活用を全国的に紹介しその普及を図るために、土地の有効活用や適切な維持管理に取り組み、土地活用の模範的事例、いわば「成功モデル」に着目した事例を募集し、優れた事例について「国土交通大臣賞」をはじめとする表彰を行うものです。来年度の募集は8月上旬の予定です。

審査

(1) 審査経過

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ・ エントリー用紙の提出締切り | 平成 21 年 8 月 7 日 (金) |
| ・ 応募図書提出締切り (15 地区の応募) | 平成 21 年 8 月 21 日 (金) |
| ・ 1 次審査の実施 (11 地区を選定) | 平成 21 年 8 月 29 日 (土) |
| ・ 現地調査の実施 | 平成 21 年 9 月上旬～10月上旬 |
| ・ 最終審査の実施 (8 地区を選定) | 平成 21 年 10 月 8 日 (木) |
| ・ 表彰式 (発明会館地下 1 階ホールにて開催) | 平成 21 年 10 月 26 日 (月) |



【国土交通大臣賞授与の様子】



【受賞プロジェクト関係者】

(2) 審査委員会メンバー

- | | | |
|-----|-------|---------------------------|
| 委員長 | 黒川 洸 | (財) 計量計画研究所理事長、東京工業大学名誉教授 |
| 委員 | 岸井 隆幸 | 日本大学教授 |
| | 小柳春一郎 | 獨協大学教授 |
| | 飯田 英明 | (財) 日本不動産研究所常勤顧問 |
| | 川口有一郎 | 早稲田大学教授 |
| | 根本 祐二 | 東洋大学教授 |
| | 山崎 誠子 | (有) GA ヤマザキ取締役、日本大学助教 |
| | 島村美由紀 | (株) ラスアソシエーツ代表取締役 |
| | 田村 計 | 国土交通省土地・水資源局土地市場課長 |
| | 佐々木 健 | (財) 都市みらい推進機構専務理事 |

(3) 審査基準

審査委員会において、

- ・「課題対応性 (地域の課題や経済・社会的な課題への適切な対応)」
- ・「先導性 (周辺への触発効果や他のプロジェクトに対する影響 (インパクト) など)」
- ・「独創性 (手法や仕組みの新しさ)」
- ・「汎用性 (他地域での応用のしやすさ)」

4つの審査基準をもとに審査が行われ、以下の作品が優秀作品として選定されました。



□国土交通大臣賞

・「篠崎駅西部地区連鎖型土地区画整理事業」

本プロジェクトは、東京都江戸川区の都営地下鉄新宿線篠崎駅の西口周辺において、連鎖型土地区画整理事業を活用し、街区の特性に応じた整備・土地の有効活用を図ったものです。

本事業の特徴は、大街区のままですプロール開発が進んだ駅前市街地において、各街区の特性や課題が異なる状況に対して、街区単位での解決策を地権者とともに見出して土地の速やかな活用に結び付けたことにあります。駅前の街区では、立地条件と公的用地活用に着目し、民間企業によるSPCを事業主体とする公益複合施設建設整備を行っています。第2の街区では行き止まり私道の解消に限定した整備を行い、第3の街区では零細な戸建て住宅地権者をコーポラティブハウジング手法を用いて集合住宅に集め、跡地を行き止まり私道の解消に充当しています。

本プロジェクトは、土地区画整理事業という一つの整備手法をプラットフォームとしつつ、整備後の市街地像は街区やエリアの特性に応じた実現可能性（＝円滑な合意形成）の高いものを描き、この出口に向けて街区単位で実践的な具体化手法を組み立てているものです。こうした取り組みは、合意形成が最大の課題となっている既成市街地等における市街地整備において多くの示唆を与えるプロジェクトです。





□ (財) 都市みらい推進機構理事長賞

・「丸の内パークビルディング・三菱一号館」

本プロジェクトは、東京の丸の内地区にあった三菱商事ビル、古河ビル、丸の内八重洲ビルの3棟を解体して一体的に再開発し、その一環として敷地内にジョサイア・コンドル設計の丸の内最初のオフィスビル「三菱一号館」を復元した美術館と緑のオアシス空間を創出したものです。

本事業は、ビジネスに特化していた丸の内が多様な魅力をもつ21世紀型都心に急速に変化していく、その象徴的なプロジェクトであると言えます。丸の内と有楽町を結ぶ丸の内仲通りの中央部にある立地を生かし、三菱一号館・一号館広場によってこの地域全体のシンボル空間を創出しています。三菱一号館は明治期の洋風建築をオリジナルに忠実に（レンガなどは手作りによって）復元したもので、建築史的にも意義のある事業と思われます。一方で、JR 東京駅丸の内駅舎の未利用容積率を特例容積率制度を活用して移転するなどの都市計画的な制度も活用しています。さらに、環境と共生するまちづくりを目指し、様々な省エネ、環境負荷低減の取り組みが組み込まれており、壁面等2,500㎡を超える面積を緑化、給水型保水性舗装等とあわせ、ヒートアイランド現象対策も行われています。





・「黄金町地区における高架下活用及び小規模店舗転用によるまち再生プロジェクト」

本プロジェクトは、戦後形成された特殊飲食街ゾーンを地域住民と大学・行政・警察の協働によって文化芸術のまちへと再生・イメージ転換を進めているものです。地域が主体となったエリアマネジメント手法を導入、大規模な再開発に頼らないコンバージョン型地域再生を目指して一軒ずつ着実に用途転換、コンバージョンを進めています。

本事業の特徴は、地域の住民と大学などが連携して「NPO 黄金町エリアマネジメントセンター」を設立し、このNPOが事業全体の中核的役割を果たしていることにあります。特設街撤去に伴う約250軒の空き家のコンバージョン、及びその後のテナント斡旋や維持管理などに積極的に係わり、市内の3つの大学の建築・都市計画系研究室が協力してこうした活動を支援しています。また、NPOが主催するまち歩きツアーなどの様々なイベントにも多くの市民が参加しています。

こうした活動を通して、高架下はアートスタジオやファッション系ブティックなどに変身し、地域全体が文化・芸術・ファッションのまち、情報発信をするまちへと変化しつつあります。

こうした、NPOが主体となって、地域の文化的活動と連動しながら小規模店舗をコンバージョンしていく手法、地域の大学と連携してまちづくり活動を進める手法は、空き店舗問題を抱える中心市街地活性化などにも参考になると考えられます。





□審査委員長賞

・「むろらん広域センタービル」

本プロジェクトは室蘭市の JR 室蘭駅に近い中心市街地において、旧国鉄跡地活用に向け、地元の行政・産業界が官民共同して整備運営組織を構築・設立し、北海道庁合同庁舎誘致を実現したものです。事業化の資金調達のため、市内企業向け社債発行、市民参加型公募債の発行を行うなど、すべて地元で資金調達を行っています。

金融機関、市役所窓口、北海道事務所が集約しており、ワンストップの市民サービスが実現しています。また、ビルの開業後は新しい人や車の流れが発生し、周辺では店舗の新築や空き店舗を活用した新規出店などもあり、周辺商店街の活性化や賑わいづくりの創出に向けた動きなど、本事業が中心市街地の活性化に寄与していると思われます。

地域が一丸となって広域拠点施設（業務センター）を早期に整備するスキームを構築し実践したもので、地方都市などにおいていわゆるシビックセンター的な土地活用を行う際の参考になると考えられます。



・「井野アーティストヴィレッジと Tappino による取手井野団地アート拠点形成プロジェクト」

本プロジェクトは茨城県取手市の JR 取手駅から徒歩 15 分程度の UR 都市機構取手井野団地井野ショッピングセンターにおいて、空き家化したセンターを、地元の東京藝術大学が参画して、7つのスタジオ、31人の作家が拠点を構える共同アトリエ「井野アーティストヴィレッジ」にコンバージョンをしたものです。

この事業は、大学、行政、都市機構の3者がアートをキーワードに団地の再生、活性化を図った協働事業ですが、この事業によって取手井野団地はアートのまちのイメージが創られ、芸大卒業生の居住をはじめ若年層の居住が増え、団地入居率の向上にも寄与していると言われています。





・「住宅型・介護付有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」」

本プロジェクトは新潟県上越市の JR 高田駅前において、農機具会社の本社工場跡地を中心市街地活性化の一環として高齢者向けのケア付き住宅として再開発したものです。高齢化と人口減少が進む地方都市の中心市街地において、工場跡地をまちなか居住や高齢者ケアというニーズに着目して、介護付き有料老人ホームとして活用し、中心市街地活性化、歩いて暮らせるまちづくりにも寄与しています。

本事業は、農機具会社という地元の企業が自社用地活用に向けて NPO を立ち上げ、行政や自治会と協力して構想案を作成し事業化・運営を行っているもので、今後の地方都市における地域の企業の土地の有効活用、CRE 的な土地活用の一つのモデルとも言えます。



・「戸畑 C 街区整備事業」

本プロジェクトは、北九州市戸畑区の JR 戸畑駅から約 800m の中心市街地の一角にある市有地を、事業プロポーザルによって多機能が複合する生活と交流の場として整備したものです。街区の中央に「ふれあいの丘」交流広場を設け、回りに区役所、市営住宅、高齢者複合施設、障害者地域活動センター、保育所、公社の賃貸住宅、民間の分譲住宅を配置することで、ふれあいの丘を中心として多世代が共生する「まちなか居住」の場が実現しています。

本事業では、設計から施工まで、土地の活用形態、区画割りを含めて一括して、民間の技術やノウハウ、資金の活用により事業を行い、戸畑のランドマークとなる印象的で魅力的な都市空間が創出されました。

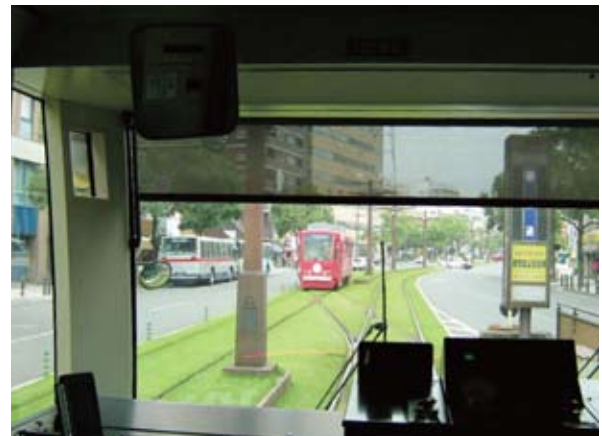




・「鹿児島市電軌道敷緑化整備事業」

本プロジェクトは、鹿児島市の中心市街地を通る路面電車の軌道敷部分を芝生によって緑化し、都市の中心部を带状に結ぶ緑の景観軸を形成し、観光やヒートアイランド対策などの多面的な効用を実現したものです。昼間は緑の景観、夜間はライトアップにより独特の街並み景観を演出しており、軌道敷が中心市街地のランドマーク、景観資源、環境資源として生まれ変わることで、来街者に潤いと安らぎを提供、まちの魅力アップによって来街者が増加し、中心市街地の活性化にも貢献しています。

この事業の特徴は芝生の下にある素材で、火山灰でできたシラスをコンクリートブロック化した「シラス緑化基盤」を開発し、これに天然芝を植え付けたものを市電軌道敷に敷設して緑化が行われています。いわば地域の（負の）資源を活用して無機質な軌道敷を観光資源・景観資源につくり変えたとも言えます。



§ 平成 21 年度土地月間記念講演会を開催

国土交通省では毎年 10 月を「土地月間」と定め、土地の有効活用促進に向けたイベントを数多く行っておりますが、当機構でも、こうした国土交通省の開催趣旨に賛同して、毎年標記イベントを開催しております。

表彰式と講演会は従来別々の日に開催しておりましたが、今年は、関係者からの要望もあり併催とさせて頂きました。

講演会の部につきましては、例年、(財) 土地総合研究所のご協力を得て共催とさせて頂いている他、国土交通省、(社) 経済同友会、日本商工会議所、(財) 日本不動産研究所、(株) 日本政策投資銀行にも後援を頂いております。

当日は天候が極めて悪かったにも拘わらず、180 名の方々にご参加頂きました。

表彰式に引き続いて行われた講演会では、国土交通省土地・水資源局の田村計土地市場課長から「土地行政の最近の動き」と題してご講演を頂いた後、受賞者から受賞プロジェクトの概要をご説明頂きました。

そして最後に、「PRE（公的不動産）戦略」について、日本大学経済学部の中川雅之教授にご講演を頂きました。



以下、その概要についてご紹介しておきます。

1. 国土交通省の土地行政の最近の動きについて・・・土地市場課長 田村計氏
最近の地価動向・経済動向・不動産市場の動向に加えて、国土交通省の主な施策
(CRE・PRE 戦略、不動産市場データベース整備、リスクマネジメント研究、定期借地権制度等)
についてご説明いただきました。
2. 平成 21 年度土地活用モデル大賞全受賞プロジェクトの概要説明
 - 【国土交通大臣賞】・・・1 点
 - ◇篠崎駅西部地区連鎖型土地区画整理事業について
江戸川区土木部長 土屋信行 氏
 - 【都市みらい推進機構理事長賞】・・・2 点
 - ◇丸の内パークビルディング・三菱一号館について
三菱地所株式会社 ビルアセット開発部副長 村田修 氏
 - ◇黄金町地区における高架下活用及び小規模店舗転用によるまち再生プロジェクトについて
特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局次長 櫻井淳氏
 - 【審査委員長賞】・・・5 点
 - ◇むろらん広域センタービルについて
室蘭市企画財政部企画課主査 盛田学 氏
 - ◇井野アーティストヴィレッジと Tappino による取手井野団地アート拠点形成プロジェクトにつ
いて
井野アーティストヴィレッジ代表責任者（東京藝術大学教授）渡辺好明 氏
 - ◇住宅型・介護付有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」について
株式会社くびき野ライフスタイル研究所長 横田直幸 氏
 - ◇戸畑C街区整備事業について
北九州市建築都市局総務企画部事業調整課長 石松毅彦 氏
 - ◇鹿児島市電軌道敷緑化整備事業について
鹿児島市建設局長 山中敏隆 氏
3. 「PRE（公的不動産）戦略」について・・・日本大学経済学部教授 中川雅之 氏
「公的不動産の合理的な所有・利用に関する研究会における Public Real Estate Management の検討」
と題して、ご講演頂きました。
 - ◇公的不動産の現状・土地のリスク資産化・土壌汚染リスクの高まり・公共施設ストックの老朽化、
求められる基本的な不動産マネジメントプロセス等
 - ◇PRE 戦略手引書・地方公共団体が PRE 戦略を立案・実践するにあたっての参考書となることを
目的に作成されたもの。
 - ◇PRE の更なる発展のために・・・大統領令 13327 号（必要な視点、内部統制、支援体制等）の紹介



§ 淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発事業 VE 提案審査会の開催

本事業では、高品質な超高層複合用途ビルを効率的かつ総合的に施工することを目的として、発注者・設計者の技術・ノウハウに加え、工事を行う立場の方々の総合的な技術・ノウハウも十分に採り入れるために入札前に VE 提案を募る、「入札時 VE 方式」を採用しました。

当機構は、淡路町二丁目西部地区市街地再開発組合が、淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発（以下、淡路町再開発）事業における本体工事等の入札を、円滑に実施できるよう、事前の業者選定基準作成、入札要綱作成、入札までの審査業務等を公平公正な第三者機関の立場として、取りまとめを行ないました。



審査会の様子

審査においては、入札時に係る VE 提案項目について、施工の確実性、安全性、コスト比較、独自技術力等々の項目を審査するため「淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発事業施設建築物等工事 VE 提案審査会」（以下、審査会）を設置、開催しました。

また、審査委員には、再開発事業に精通し見識の高い学識経験者及び専門技術者に、審査委員を委嘱し、審査会は全3回開催しました。

（安藤、樋口、松村）

【事業概要】

東京の御茶ノ水駅の近くで再開発事業を進めている淡路町再開発事業は、9月28日、高さ約165メートルの超高層ビル等を建てる北街区の施工者を、入札時 VE 提案を採用した指名競争入札を行いました。

北街区は本体棟（地下3階地上41階建て高さ約165メートル）とアネックス棟（地下2階地上15階建て高さ約65メートル）を建設する予定で、本体棟にはオフィスや住宅（314戸）の他、店舗、コミュニティー施設等が入り、アネックス棟はオフィス、店舗と学生用賃貸住宅で構成されます。この2棟を合わせた延べ床面積は約12万9000平方メートルになります。



イメージパース（現時点）



§ 平成 21 年度まちづくり情報交流協議会全国秋季研修会（別府）の開催

まちづくり交付金事業を活用して、地域の創意工夫を活かしたまちづくり交付金の推進を目指す地方公共団体が集う「平成 21 年度まちづくり情報交流協議会全国秋季研修会（別府）」が、関係団体の協力のもと 11 月 4 日から 5 日の二日間にわたり別府市内で開催されました。初日は、講演・パネルディスカッション・研修会等が行なわれ、二日目は、まちづくり交付金事業地区の視察研修が行なわれました。なお、初日に約 160 名、二日目に約 130 名の出席者がありました。

【初日（11 月 4 日午後、別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ）】

1. 挨拶

- 主催者挨拶 まちづくり情報交流協議会会長（代理） 矢野 大二 氏
- 開催市挨拶 別府市長 浜田 博 氏

2. まちづくりシンポジウム

● 基調講演

「地域資源や景観に配慮した中心市街地のまちづくり」と題して、佐賀大学理工学部の三島伸雄准教授より、ご講演をいただきました。

● パネルディスカッション

テーマ 「地域資源や景観に配慮した中心市街地のまちづくり」

- | | | |
|-----------|------------------|---------|
| ① コーディネータ | 佐賀大学理工学部准教授 | 三島 伸雄 氏 |
| ② パネリスト | 白杵の歴史景観を守る会会長 | 斉藤 行雄 氏 |
| | 大分大学工学部福祉環境工学科助教 | 姫野 由香 氏 |
| | 有限会社サンワ工務店代表取締役 | 山野 潤一 氏 |

パネルディスカッションの第一セッションにおいては、パネリストがこれまでに取り組んだまちづくりの事例の紹介があり、第二セッションにおいては、それぞれの取組みの中で工夫した点や課題解決方法をご披露頂き、第三セッションにおいては、今後想定される課題やその他特筆すべきことについてご意見をいただきました。その中で、普段気にも留めない地域資源の発見を如何にして行うか、また、大学の役割及び大学と行政との連携の必要性、更には、極めて熱意のある担い手を育成することの重要性などが提案されました。



主催者挨拶



基調講演



パネルディスカッション



3. 講習会

- | | | |
|-------------------------|--|------------------|
| ①「九州地方におけるまちづくり」 | 国土交通省九州地方整備局 建政部長 | 中島 正人氏 |
| ②「九州地方における特色あるまちづくりの紹介」 | 国土交通省九州地方整備局 建設部 都市・住宅整備課長 | 平塚 勇司氏 |
| ③「第4回まち交大賞受賞地区の事例紹介」 | 山梨県甲州市 観光産業部 観光課 課長補佐
富山県富山市 都市整備部 都市政策課 企画係長 | 三森 哲也氏
金山 英樹氏 |
| ④「まちづくり交付金制度の最近の状況」 | 国土交通省まちづくり推進課都市総合事業推進室長 | 清水喜代志氏 |

【二日目（11月5日午前）】

まちづくり交付金事業地区の視察研修

視察地区：鉄輪温泉地区

別府市のご協力により、別府駅周辺地区の紹介と鉄輪温泉地区について説明がありました。

鉄輪温泉地区については、温泉街の賑わいの再生を目的として整備を行った道路石畳・情報掲示板・街路灯および温泉の蒸気を利用したむし湯・足岩盤浴施設・まちおこしセンターについて説明がありました。



鉄輪温泉地区



説明風景



まちおこしセンター予定地

§ 平成 21 年度調査研究報告会及び意見交換会開催のご案内

恒例となっております平成 21 年度調査研究報告会及び意見交換会を、以下のとおり開催致します。

1. 日時 平成 21 年 11 月 27 日（金） 15:30～20:00
2. 場所 ・都市計画会館（調査研究報告会・講演会）
・ルポール麹町（意見交換会）
3. 内容
 - (1) 調査研究報告会
 - 受託調査概要説明 （財）都市みらい推進機構 専務理事 佐々木 健
 - 個別調査報告・報告内容が一部変更になる場合もございます。
 - ・まち交関係（まちづくり情報協議会共同研究、まち交コーディネート事業）
 - ・土地活用関係（土地活用モデル大賞報告、特色あるまちづくり－岐阜駅前地区、PRE 関連調査）
 - ・地域不動産情報発信サイト
 - ・質疑応答
 - (2) 講演会
 - （演題）まちづくりの最近の話題について（予定）
 - （講師）国土交通省 都市・地域整備局 まちづくり推進課
都市総合事業推進室長 清水 喜代志氏
 - (3) 意見交換会



§ 首都圏外郭放水路及び越谷レイクタウン研修会を開催（アーバンインフラ・テクノロジー推進会議・都市地下空間活用研究会）

去る10月28日に、国土交通省のご協力を得て春日部市上金崎にある首都圏外郭放水路、並びに（独）都市再生機構のご協力を得て春日部レイクタウン地区事業の研修会を開催しました。

午前の首都圏外郭放水路研修会では、地底探検ミュージアム「龍Q館」において概要説明をしていただいた後、第一立坑（GL-72.1m:110段の階段）に降りて行きました。

首都圏外郭放水路は、あふれそうになった中小河川の洪水を地下に取り込み、国道16号の地下約50mに建設された延長6.3kmの地下放水路で江戸川に流す、世界最大級の洪水防止施設。日本が世界に誇る最先端の土木技術を結集し、平成18年6月に完成。完成に先立ち、平成14年から部分的に稼動し、毎年5～7回の洪水を安全に処理することで、高い治水効果を発揮。主な施設は、直径30m、深さ60mにおよぶ巨大立坑5本、地中深く6.3kmにわたって走る直径10mの地底トンネル、重量500トンの柱が59本もそびえるマンモス水槽、そして、毎秒200tの水を排水する14000馬力タービン（ボーイング737と同じ）などがあります。

対象地区は江戸川と中川、大落古利根川にはさまれた低平地。対象河川は中川、倉松川、大落古利根川等。流入河川は、第18号水路4.7m³/s、中川25m³/s、倉松川100m³/s、幸松川6.2m³/s、大落古利根川85m³/s、江戸川排水量200m³/s。

詳細は以下のホームページに掲載されています。

http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/info/g-cans/frame_index2.html

ちなみに、「龍Q館」のネーミングは春日部市の「火伏せの龍」伝説と「AQUA」にちなんだものだそうです。

午後の越谷レイクタウン研修会では（独）都市再生機構の担当の方から、事業概要の説明を受けた後、現地を案内いただきました。

越谷レイクタウン地区事業は、越谷東南部地域の新たな拠点として、春日部・越谷業務核都市形成に寄与することを目的とし、中川・綾瀬川総合治水計画に基づく河川施設として位置付けられている大相模調節池と計画的



龍Q館内



第一立坑入口



第一立坑内





市街地を一体的に整備し、新駅設置による鉄道の利便性を活かしながら、水辺空間と共生する良質な住宅地及び商業・業務用施設用地等の供給と公共公益施設の整備改善を図ることにより健康でかつ良質な住環境を有する新市街地の形成を図ることを目的としています。

昭和63年4月に、治水対策を目的とする河川事業による調節池建設と土地区画整理事業による新市街地整備を一体的な事業として行う「レイクタウン整備事業」が国の新規施策として創設され越谷レイクタウン地区が事業採択、平成6年10月に公団施行地区として決定され、8年5月に都市計画決定、11年12月に事業認可、20年3月にJR武蔵野線「越谷レイクタウン駅」が開業、20年10月には複合商業施設「イオンレイクタウン」が開店しています。

地区面積は225.6haで、土地利用計画は道路が14.5%、公園・緑地3.1%、水路・調節池17.2%、住宅用地43.9%、公益施設用地43.9%、その他12.0%。計画人口は約22,400人（7,000戸）、事業期間はH11/12～H26/3、総事業費は約897億円。平成25年度末に換地処分の予定です。

「親水文化創造都市」を目指しており、コンセプトは「豊かな水と緑と共に暮らすまち」「やすらぎに包まれたまち」「アクセスに優れたまち」「便利で楽しいまち」。大相模調節池ではカヌーやディンギーが楽しめ、レイクサイドウォークやビオトープゾーンもあります。住宅地分譲（戸建・マンション）も進めており、ショッピングモールのイオンレイクタウンは、人と自然に「心地いい」をコンセプトに開発された日本最大のエコショッピングセンターです。

大相模（おおさがみ）調節池は面積約39.5ha、調節容量は120万 m^3 （常時湛水量46万 m^3 ）。調節池の余裕容量を確保し、洪水時に備えるため、水深は常に1.0～1.5mに保っています。

元荒川に流れ込む大量の水の一部を調整池に貯めて浸水被害を及ぼすピークの流量を抑え、最大水深5mまで水を貯めることができます。このときの水量は最大約120万 m^3 、50mプール約800杯分に相当するそうです。

先般の台風18号では、訪問した2施設とも洪水防止に威力を発揮したそうです。

今回の研修会開催にあたりましては、春日部市様にバスの手配やアテンドなど、多大なご協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。





§ 会員紹介：東武計画株式会社

探求者として真摯な目で地球を見つめ、時代を読み、人・自然・社会の調和を保つ中に、イキイキとした生活と生活環境、そして生活文化を創造していきます

当社は、昭和 28 年 7 月に創業致しました。その後、昭和 47 年にはコンサルタント業務を開始、平成 3 年には「東武計画株式会社」として社名を変更し、総合建設コンサルタントとして社会に貢献できる企業を目指してきました。

現在、空間情報サービスの他、都市計画及び地方計画、都市再生、環境調査、道路・鉄道設計、建築設計、補償調査など総合建設コンサルタントとして展開しており、特に、航空測量・GIS を中心とした空間情報サービス、交通施設計画・設計を中心とした面整備については豊富な実績・信頼を頂いております。地球温暖化など地球規模での環境危機が叫ばれている昨今、自然との共生の中で如何にして住みやすい環境を演出できるか、幅広い視野をもって社会的な役割を果たす。これが私たちの使命です。

都市計画・まちづくり計画



地域ならではのまちづくりをめざして大胆に取り組み、地域との連携コミュニケーションを持ってまちづくりを進めます。

交通計画



課題に的確に対応するために、各種需要予測手法を駆使し、公共交通、道路交通等多様なモードの計画を立案します。

環境、公園緑地計画・設計



「人と人」「人と都市」「人と自然」における望ましい姿を追求し、豊かな環境のシンフォニーを創造します。

土地区画整理



企画から清算登記まで長期にわたる事業に一貫して携わり、豊富な経験と実績、最先端の技術を駆使し土地区画整理事業を進めます。

お問い合わせは：東武計画（株）まちづくり事業部 TEL:049-228-0036



§ 機構の活動状況

日	10月	日	11月
3	群馬県上野村シンポジウム	1	中央区まるごとミュージアム「木更津河岸復活」開催
8	土地活用モデル大賞最終審査	4	群馬県上野村意見交換
26	土地活用モデル大賞表彰式	9	木更津市企画部意見交換
26	土地月間記念講演会	14	木更津市「地方の元気再生事業」-舟の森を訪ねて-開催
27	木更津市企画部意見交換	20	武蔵小杉周辺地区プロジェクト説明会
		27	平成21年度調査研究報告会、意見交換会

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

5	八重洲・京橋・日本橋分科会幹事会	4	八重洲・京橋・日本橋分科会（中央区）
5	情報化推進部会	12	地下街耐震調査（名古屋、小田原他）
6	大阪分科会幹事会	17～23	ACUUS2009 国際会議（中国深圳）
7	八重洲・京橋・日本橋分科会幹事会、地下利活用リーダー会	30	地下利活用制度整備分科会
7	新たな地下利用像 W3	30	地下研懇話会
9	地下街耐震調査委員会		
16	地下利活用整備検討分科会		
28	首都圏都市基盤施設整備研修会		

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

28	第2回首都圏都市基盤施設整備研修会	9～15	第16回交流展示会
		11	第3回首都圏都市基盤施設整備見学会
		12	第21回技術研究発表会

《まちづくり情報交流協議会》

		4～5	まちづくり情報交流協議会全国秋季研修会（別府）
		10	まち交講習会（四国）
		16	まち交講習会（九州）
		25	まち交講習会（近畿）
		26	まち交講習会（関東）
		27	まち交講習会（北海道）
		30	まち交講習会（北陸）

(財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽3階
電話 03-5976-5860
FAX 03-5976-5858
Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・まちづくり交付金事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援 他